



おいでん祭特別委員会 委員長方針

桂川 舜

委員会日：毎月13日前後

=委員会メンバー=

副委員長：市岡 永次 糸魚川英雄

<委員長方針>

「おいでん祭」は、人と人を繋ぎ、地域の歴史や文化に触れ、ふるさとの心をつなぐことを目指して始まりました。中津川青年会議所の先輩諸兄姉が、誰の心にも繋がるふるさとのまつりとするため、市民と共に時代に即した最善の形を模索しながら、長い歴史を築いてきました。その中で各団体の熱い想いが演者の熱気を生み出し、まつりの一体感をもたらすことで、今では多くの市民にとってふるさとのまつりとして定着しています。しかし現在、準備段階から各団体とメンバーが携わる機会が減少している中で、「おいでん祭」のこれまでの歴史を理解し切れず、主体的に行動できるメンバーが少なくなっており、「おいでん祭」への思い入れや運営に対する理解が不足していると考えます。これでは対応が後手になり、運営が滞ってしまい、演者も満足に演技ができなくなることで来場者の方が「おいでん祭」を楽しめなくなり、その結果愛着が薄まり参加しなくなってしまう可能性があると考えます。だからこそ、我々は「おいでん祭」の運営に対し理解を深め、一人ひとりが主体的に動ける体制を整えることが必要です。そうすることで我々も、この「おいでん祭」を受け継ぎ、市民や各団体と共に、より多くの人々に愛され続けるふるさとの祭りとして引き継いでいくことができると考えます。

本年度、おいでん祭特別委員会は、市民、演者、運営が一体となってまつりを盛り上げられるよう取り組んで参ります。そのために、まずは「おいでん祭」の歴史を理解し、早い段階から全メンバーに役割と権限を明確に与え、各団体と深く関わりを持っていただくことで「おいでん祭」の活動の原動力となる想いを理解していただきます。その中でメンバーが各々「おいでん祭」に対する想いと、運営に対する責任感を持ち、共有することが重要です。そうすることで誰かのために行動することができるようになり、市民や各団体と想いを一つに、活気のある「おいでん祭」を開催できるようになると考えます。

メンバーには、まずはおいでん祭に関わる人との交流を楽しんでいただきたい。それが互いに助け合える良好な人間関係の構築へと繋がり、「おいでん祭」全体の益になると考えます。そのために委員長として、多くの方と関わる機会をメンバーへ提供し、共に絆を深める中で、私は誰よりも「おいでん祭」を理解し、行動を見せ続けメンバーを巻き込んで参ります。